

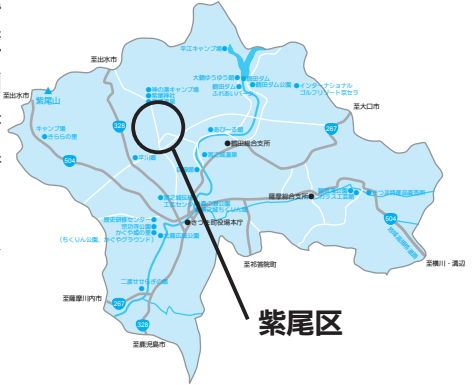
さつま町内の20区公民館が取り組んで特色ある活動、イベントなどを紹介しています。



館長 大園 美智男さん

紫尾区は、さつま町の北部東経130度26分、北緯31度51分、海拔80メートルに位置し、総面積約11キロ平方メートルの紫尾山系の小高い山々に囲まれた、3集落（合併前8集落）からなる純農村地帯です。また、川内川の支流、夜星川がさつま町の市街地から出水へ通じる県道に沿って流れています。

史といで湯の郷紫尾は、神社の拝殿の下から湧き出る温泉は神の湯と崇められ、名泉の声高く、地元はもとより、遠方からの湯治客が温泉を訪れます。また、立原の墓石塔群をはじめ、数多くの史跡群があります。



◆人口 715人

◆世帯数 271世帯

◆公民会数 3公民会

ふれあい活動



地域文化の発展は学校が存在することです。学校、地域、PTAは色々な面で協力し合い、様々な活動を展開しています。老人クラブとのふれあい活動では、しめ縄、もぐら打棒作り、昔の遊び、グラウンドゴルフなど交流を深めています。

文化財



立原墓石塔群は紫尾山神興寺の僧都の墓石で、町文化財に指定されています。墓石群は上段、中段、北側に計60余基あり、最も古いものは応永23年（1416年）となっています。当時はお寺がたくさんあったことでしょう。

紫尾温泉



閑静なるいで湯の郷紫尾温泉、社殿の下からこんこんと湧き出で溢れて幾千年、一浴頻脳の垢をそそぎ、心身共に爽快まことに「神の湯」と崇められています。温泉は毎分200リットル、温度は50.3℃で、神経痛などに優れた効き目があり、村人達はもちろん、県内各地からの入浴客も多く、神の湯として親しまれ、愛用されています。また、柿のあおしは、秋の風物詩となっています。

郷土芸能



紫尾には沢山の郷土芸能があります。区の芸能では種子島、大太鼓、幣舞、カナヤマ、棒踊り（片平、浅山）とされ、集落では、田の神舞い、どんぢ節、鷹踊り、虚無僧踊り、新地節があります。平成6年度には紫尾小学校の新築落成式で全集落の芸能が披露されましたが、それ以降、過疎や高齢化により集落芸能の伝承が難しくなっているのが現状です。合併で毎年交代で伝承しようとの機運もあります。昨年は温泉祭りで、区の大太鼓踊りが披露されました。